

印象に残った言葉、わかり難いコトバ

中野 秀俊†

Impressive Words and Words Hard to Understand

Hidetoshi NAKANO†

小生の如き者が斯様な欄に寄稿することは大変に烏滸がましく、会誌の趣旨に叶う程の高邁な意見の披露たり得るか甚心許ない。筐体に「飛秒…」と記された装置を日々目の前にして思い浮かんだ事を述べる。

小生が抑、光技術に深く関わり合う事となった契機は、大学学部時代での光波工学に関する講義である。その講義では、多くの事を習ったのだが、最も印象に残ったのは、「今はまだ光の特徴を表す基本単位として波長が用いられているが、この代わりに周波数を用いるようにならなくては…」といった趣旨の一言である。それ以来四半世紀以上が過ぎ、小生もその半分以上の年月を超短パルスレーザー利用業務に費やしてきた。今や、レーザーの進歩は、光電界の振動波形を十分に認識、制御可能とし、光搬送波の周波数も高確度計測可能となっている。斯様な現状は、昨年から今年にかけて刊行された「レーザー研究」の幾つかの特集号題目を御覧になれば理解して頂けよう。さらには、任意形状の光電界を発生させる光ファンクションジェネレータや、これによって得られる複雑な光電界を直接観測する光オシロスコープの実現も時間の問題であろう。斯様な技術を如何なる舞台で活用するかは取り敢えず忖措き、光波技術者にとっては、非常に周波数の高い電磁波としての取り扱いの具現化であり、一種夢の技術であったことに相違あるまい。四半世紀前に小生が薫陶を受けた一言は、こんな時代の到来を予言されたものだったのであろう。今更乍らに先生の慧眼に畏れ入る次第である。個人的には、今後も斯様な技術分野に関わり続けたいと願っている。

扱、冒頭に記した小生が眼前にある「装置」が何であり、その産地が何処か、御解り戴けたであろうか。日頃の研究開発業務で直面する新たな概念、技術の多くが欧米の原語から移入されているので、在来の母国語に置き換えることは必ずしも容易では無さそう。こうした場合、多様な表記法を許す日本語の柔軟性が有り難い。意味は伝わらずとも、発音に従って片仮名表記すれば、恰も日本語の如く扱う事ができる。更に、横書きの場合には、欧文表記の儘でも然程の違和感もなく文書に取り込める。此の特徴は、新奇な用語や固有名詞の移入に便利であり、先人に倣って、その益を大いに享受すべきだと思う。ところが、最近、十分に流布した母国語の単語が存在するにもかかわらず、矢鱈と「カタカナ」表記の外国語に置き換えた表現が蔓延していると感じる。殊に、印刷物として手渡されると著しい違和感を覚える。其れでも全うに片仮名表記しているのなら、まだ優しである。必要以上の省略語、アルファベット頭文字を並べた隠語の如き単語までが大手を振って登場し、時に理解を困難にしている。

ここで、振り返ってみると、科学技術の文献に於いて、上記の如きアルファベットを連ねた略語が多用されている現実に思い至る。斯く言う小生も何時の間にか濫用している。確かに、仲間内では便利に通用する代物だが、門外漢にあっては、原語を知らないと殆ど其の意味を推測することすら不可能であろう。漢字が並んだ略語ならば如何であろう。漢字が表意文字である為、少なからず意味を推測する事は出来そう。こう考えると、見た目がスマートなカタカナ用語やアルファベット3、4文字の略語許りクリエイトするのではなく、その内容や概念を簡潔に示唆する意識、造語(出来れば重厚な響きの)を捻り出す事も、科学技術を流布する為に必要なのではないだろうか。ただ、必要以上に漢字を羅列した小文はやはり読み難い。何事も中庸が肝要という事か。

†日本電信電話(株) NTT物性科学基礎研究所 (〒243-0198 神奈川県厚木市森の里若宮3-1)

†NTT Basic Research Laboratories, Nippon Telegraph and Telephone Corporation, 3-1 Morinosato Wakamiya, Atsugi, Kanagawa 243-0198